

## 12 不妊症における漢方薬の有効性について

杉山産婦人科新宿<sup>1)</sup>、住友病院泌尿器科<sup>2)</sup>  
順天堂大学医学部附属浦安病院 泌尿器科<sup>3)</sup>  
獨協医科大学埼玉医療センター 泌尿器科<sup>4)</sup>  
順天堂大学 泌尿器外科<sup>5)</sup>

寺井 一隆<sup>1)</sup>、宮川 康<sup>2)</sup>、辻村 晃<sup>3)</sup>  
岡田 弘<sup>4)</sup>、堀江 重郎<sup>5)</sup>

### 【背景】

男性不妊症に対する薬物療法は、内分泌療法、非内分泌療法に分けられる。さらに非内分泌療法はサプリメントと漢方に分けることができる。男性不妊症に効果があると報告されている漢方は補中益気湯、八味地黄丸、柴胡加竜骨牡蛎湯などがある。今回は補中益気湯の効果について検討した。

### 【対象と方法】

2015年10月から2017年3月の間に男性不妊外来を受診し、精液検査で精子濃度1500万以下または精子運動率40%以下であった症例を対象とした。精液検査および採血を行い条件を満たしている症例に対して補中益気湯7.5g/日の内服を開始し、3ヶ月後に精液検査および採血を行った。

### 【結果】

症例は23例、平均年齢は $38.4 \pm 6.7$ 歳、Grade2以上の精索静脈瘤を認めた症例は9例であった。補中益気湯1日7.5gを内服し、投与前後の血液検査の平均値を比較すると、LH  $3.6 \pm 2.2$  mIU/ml v.s.  $3.7 \pm 1.6$  mIU/ml (P=0.58)、FSH  $5.2 \pm 3.0$  mIU/ml v.s.  $5.6 \pm 3.3$  mIU/ml (P=0.16)、テストステロン  $4.5 \pm 0.9$  ng/ml v.s.  $4.3 \pm 1.0$  ng/ml (P=0.39) とホルモン値に明らかな変化は認められなかった。また、精液検査の平均値の比較では、精液量  $3.2 \pm 1.5$  ml v.s.  $3.0 \pm 1.2$  ml (P=0.52)、精子濃度  $37.9 \pm 3.8 \times 10^6$  /ml v.s.  $39.3 \pm 34.4 \times 10^6$  /ml (P=0.79)、精子運動率  $31.4 \pm 15.0\%$  v.s.  $36.3 \pm 16.3\%$  (P<0.05) と、精子運動率は有意差をもって上昇していた。